

Alert 20号

反天皇制運動

[通巻 402 号]

2018年
2月6日発行

第2期・反天皇制運動連絡会

反天日誌 * 11
野次馬日誌 * 16
反天日誌 * 13
集会情報 * 16
集会の真相 * 13
学習会報告 * 15

太田昌国のみたび夢は夜ひらく (93)
○ソ連の北方四島占領作戦は、米国の援助の下で実施されたという「発見」

追悼・福富節男さん ○ 反天皇制運動の中での交流 — 天野恵一 * 8

書評 ● 「明治日本の産業革命遺産」と強制労働 — 日韓市民による世界遺産ガイドブック
—— 蝙蝠 * 7

反天ジャーナル ○ — 井上森、つるたまさひ、映女 * 3
状況批評 ○ カラッポのタンスと聖徳の魔法 — 平井玄 * 4

● 天皇「代替わり」・「明治150年」を撃つ反天皇制運動の拡大をめざして — * 2
書評 ● 「明治日本の産業革命遺産」と強制労働 — 日韓市民による世界遺産ガイドブック
—— 蝙蝠 * 7

太田昌国 * 10
天野恵一 * 8



250円

●定期購読をお願いします（送料共年間4000円）

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net

学校教育の刷り込みによって、明治維新はアジアで唯一近代化に成功した革命（変革）であったと、ほとんどの国民、どころか世界中で信じられている。「近代」になったかどうかは置くとして、明治維新で人々は幸せになったのか。

現在の労働組合の前身である友愛会の機関紙『友愛新報』の第3号（1913年1月）に小川滋次郎（東京帝大）が「労働神聖論」を書いている。「日本は果して一等国？」という問題意識から、他の一等国とくらべて、外国貿易高や貯金額がはるかに低い、自殺者11000人、死産者154000人、犯罪者80000人（いずれも1年）は数倍というデータを示している。全体の趣旨は、これでは他の一等国に対抗できないから、まず労働者が「労働は神聖である」ということを自覚して奮闘すべしということなのだが、わたしが知りたいのは、自殺者、死産者、犯罪者の維新前の数字である。

正確な統計はもちろん存在しないはずだが、貧富の差が拡大したのは、西南戦争用の武器調達のために人為的に起したインフレを解消しようとした松方デフレ政策によって地主・小作制が成立したことと、小作人の子どもたちを極端な低賃金で雇用して実現した産業革命、資本制である。江戸時代の貧農論の克服が提起されてから久しいが、幕末に日本を訪れた西洋人もみな、「日本の農民は質素ではあるが、困窮はしていない」と書いている。大都市にスラムが形成されたのも日清・日露戦争期であった。

人々の最大の不幸は、天皇のために、お国のために、人殺しにされ、また殺されたことであろう。（千本秀樹）

今月の Alert

天皇「代替わり」・「明治150年」を撃つ 反天皇制運動の拡大をめざして



今年に入つて、天皇「代替わり」に関する準備が着実に進んでいる。一月九日の閣議で設置が決まつた「天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典準備委員会」（委員長＝菅官房長官）は、その日うちに初会合を開き、三月中旬をめどに基本方針を取りまとめることを決めた。

式典準備委員会では、「平成の即位の儀式を基本上に踏襲すべきだ」という意見のもとで、即位儀式のうち、「剣璽（けんじ）等承継の儀」「即位後朝見の儀」「即位礼正殿の儀」「祝賀御列の儀」「饗宴の儀」の五つを国事行為とし、「大嘗祭」については国事行為とはしないが、公費支出をするという方針が示された。

「剣璽等承継の儀」は「三種の神器」などの引き継ぎ儀式であり、「即位後朝見の儀」は、即位後初めて天皇として「国民代表」に「おことば」を述べる儀式である。純然たる皇室神道の儀式である大嘗祭も含めて、憲法の「政教分離」「国民民主権」原則に対する重大な侵害であることは疑いない。

さらに政府は、皇太子・徳仁が即位する来年五月一日を「この年限りの祝日とする」方向で検討に入ったといふ。「昭和の日」にはじまる「二〇〇休」があけたときには、「新しい御代」という祝賀ムードの演出ではないのか。五月一日のメーデーも天皇の記念日となつてしまふのだ。

政府は、退位の儀式を四月三〇日、即位の儀式を五月一日に分けておこなう方針である。天皇が自らの意思で皇位を譲る「譲位」の色彩を帶び、天皇の国政関与を禁じた憲法に触れることがないようにするため、と説明されている。

「明治の精神に学び、更に飛躍する国へ向けて」

今年に入つて、天皇「代替わり」に関する準備が着実に進んでいる。一月九日の閣議で設置が決まつた「天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典準備委員会」（委員長＝菅官房長官）は、その日うちに初会合を開き、三月中旬をめどに基本方針を取りまとめることを決めた。

式典準備委員会では、「平成の即位の儀式を基本上に踏襲すべきだ」という意見のもとで、即位儀式のうち、「剣璽（けんじ）等承継の儀」「即位後朝見の儀」「即位礼正殿の儀」「祝賀御列の儀」「饗宴の儀」の五つを国事行為とし、「大嘗祭」については国事行為とはしないが、公費支出をするという方針が示された。

「剣璽等承継の儀」は「三種の神器」などの引き継ぎ儀式であり、「即位後朝見の儀」は、即位後初めて天皇として「国民代表」に「おことば」を述べる儀式である。純然たる皇室神道の儀式である大嘗祭も含めて、憲法の「政教分離」「国民民主権」原則に対する重大な侵害であることは疑いない。

さらには政府は、皇太子・徳仁が即位する来年五月一日を「この年限りの祝日とする」方向で検討に入ったといふ。「昭和の日」にはじまる「二〇〇休」があけたときには、「新しい御代」という祝賀ムードの演出ではないのか。五月一日のメーデーも天皇の記念日となつてしまふのだ。

そして、この「代替わり」儀式の準備並行して、各省庁の連絡調整機関である「明治一五〇年」関連施策各府省庁連絡会議のもとで、「明治一五〇年」の祝賀事業が進められている（昨年末現在で、国主催のものが一五二件、地方公共団体レベルのものが二〇〇八件）。現時点では、開催も含めて確定してはいないが、メインの儀式として、当然、秋には政府主催の記念式典が想定されているはずである。

明治一五〇年の施策に関する政府の文書は、「明治の精神に学び、更に飛躍する国へ向けて」と称して、「明治期に生きた人びとのよりどころとなつた精神を捉えることにより、日本の技術や文化といった強みを再認識し、現代に活かすことで、日本の更なる発展を目指す基礎とする」と述べている。

政府広報で「明治ノベーション～メイジン～なるキヤラクター（？）が登場しているように、近代の出発点に投影した、「ニッポンスゴイ」論では、「一五〇年」を、今に続く一連の発展を遂げた近代化の歴史とともに、それをもたらした精神文化の称揚とともに、まるごと賛美・肯定しようとするものだ。

しかし、現実の明治＝近代日本の一五〇年とは、すなわち天皇制国家の一五〇年である。前半はアジア侵略・植民地支配と戦争に彩られ、また、後半は象徴天皇制のもとで侵略戦争と植民地支配から目を背けてきた歴史だ。「一五〇年」はそのように無条件に賛美されるような歴史では決してないのだ。

私たちには、この「明治一五〇年」が、明仁天皇「代替わり」の前哨戦として行われるイベントであるととらえ、近代天皇制の歴史総体を批判していくという立場から、今年一年間の反天皇制闘争を開始していきたい。

いくという立場から、今年一年間の反天皇制闘争を開始していきたい。

2・11反「紀元節」行動はその第一歩である。ぜひ多くの参加を。そしてまた、昨年「終わりにしよう天皇制！11・26集会・デモ」に取り組んだ首都圏の反天皇制運動の枠で、この二月から「元号はいらぬ署名運動」を呼びかけることになつた。次号では、具体的な報告もできる

師走に読む和田

知的障害の人の自立生活について

蘇るナチスの断種法

「革命百年」に駆け込みで、師走に何冊か本を読んだ。その中の一冊が、高橋和巳の『日本の悪靈』だった。一〇年近く前の、学生時代ぶりの再読である。和田テイストの、ヒロイズムや挫折といったお決まりのモチーフは相変わらずキモかった。しかしこちらも年を重ねて、新たに発見したことがある。

あらすじは、五〇年代の武装共産党の闘争で殺人を犯した男と、特攻隊帰りの刑事の邂逅である。全部省略して結論から言えば、「革命」と「戦争」という大義の前に挫折した男一人が、「挫折する忘却せよ」と迫る世間知の中で生きる」との苦しみを分かち合うというモチーフである。そこで気付く。これもまた仲間殺しの話なのだ、と。追う方も追われる方も、中心は空の無責任体系の中でもつれ合っていることを諦念と共に受け入れ、読者もそこに滅びのカタルシスを感じるのだ、と。和巳が死んで四七年。ここは越えたな、と思う。職場や生活の中で妥協を重ねつつも、一つでも陣地を広げようとしてきた無数無名の同志達のドラマは、滅びのカタルシスを無力化する。和巳が壮大に暗示しつつ、小説の最後までついに名指せなかつた「天皇」の名も、いつしか私たちは名指せるようになつた。そうだ、時代はこういう風に進むのだ。

(井上森 立川テント村)

津久井やまゆり園での障害者の多量殺傷事件から一年半。一九人という死者は三菱重工爆破事件よりも地下鉄サリン事件よりも多い。そして、容疑者の人はいまでも、意思疎通のできない（彼にはできなかつた）といふ話だが、障害者を殺した自分の行動の正しさを主張している。

精神病院に入院させられている人の多さにおい

て、日本が飛びぬけていることは知られているが、知的障害者においてもそれは似てい、四〇万人の知的障害者のうち一〇万人が入所施設。そしておそらく、残りの三〇万の大半は親との同居。その施設の多くは「別世界」のような場所にあり。なぜ、知的障害者の多くは成人しても親の家を出て、自分が住みたい場所で暮らすことができないことがあたり前とされているのか。ぼくが住んでいる地域でも、主に母親が、ぎりぎりまで知的障害のある子どもの面倒を見て、それが出来なくなつたら入所施設という例がいまでも少くない。重い知的障害者が介助者を入れて地域で生活するという取り組みはまだまだ知られていない。そして、そんな暮らしを支えることができない機関もまだ少ない。そんな暮らしを知つてもらおうというキャンペーンを始めた。「知的障害者の自立生活声明」で検索してほしい。(https://jirituseikatu.jimdo.com/)

二〇一八年一月三〇日、宮城県の女性が、旧優生保護法の下、一五歳の時に「知的障害」を理由に不妊手術を強制されたのは、個人の尊厳や自己決定権を保障する憲法に違反するとして、国に損害賠償を求める訴えを仙台地裁に起こしました。旧優生保護法の規定そのものが憲法違反であったという主張です。

旧優生保護法（一九四八年から九六年まで）下で強制不妊手術をされたのは、全国で一万六四七五人。宮城県で強制手術の記録が残っている八五九人（一九六三年～八一年）中、最年少が九歳、半数以上が未成年、審査の経緯も不鮮明。かねて国連の委員会や女性差別撤廃委員会は、被害者の救済措置を勧告してきました。同様の問題が浮上したドイツやスウェーデンでは被害者に謝罪と補償を行っています。旧優生保護法の問題点は、優生思想に基づいたナチスの断種法をとりいれた「国民優生法」が前身であること。「不良な子孫の出生防止」を目的とし、精神障害や知的障害、ハンセン病などを理由とした不妊手術を認めていました。旧優生保護法は、戦後の人口増に対応するためとされていますが、ナチスにならい戦中「産めよ殖やせよ」と命令をかけながら、戦後も「不良な子孫の出生防止」に励んでいたのです。一六年の相模原の障害者殺傷事件をみても優生思想は消えていません。国が率先して優生政策をとつてきたのだから。

(映女)

状況 批評

思想・状況・批評

平井玄

(非正規批評家)

カラッポのタンスと聖徳の魔法

魔法の本

一年前に出た片山杜秀 島薗進『近代天皇論』——「神聖」か、「象徴」かをようやく読んだ。「今のところ最強の天皇（肯定）論じやないかな？」という若い人たちの意見につられて、スラッと読了してしまった。二人とも語り口は円やかで、少なくともアキヒト以前の話題には歴史的な裏付けもある。

左派やリベラルは「最新型」と思い込んでいるが、実は昔ながらの王制転向論にはもうゲットが出る。幕末以前の江戸を理想化するか八世紀まで遡るかはいろいろだが、それらと違つて、この本は「昭和と平成」天皇家二代による「作品」としての「戦後象徴制」を浮き彫りにしているのである。それが「最強」って意味かなと思う。片山はこんな言い方をしている。司馬遼太郎の大正デモクラシー以降におかしくなつたといふ「昭和の魔法」に対して、右派はアメリカに従属する「戦後の魔法」をいうが――。

「でも国の正気なんてあるのでしょうか。私は国というのは何かの「魔法」をかけることでいつの時代にもできているものと思つてゐるのですが」（p.21）。

泣かせることをいうね。私も「国の正気」なんてないと思う。とはいひながら巧妙だ。この言葉は「魔法」の肯定と否定、その両義的な意味のあわいで成り立つてゐるのである。つまり彼らは象徴天皇時代の平和と民主主義という「戦後の魔法」を積極的に肯定する。魔法だから虚妄とわかっているよ。わかっちゃいるけど、あえて「神聖派」に対し

て肯定したいと言うわけだ。江戸にも古代にも先祖帰りしない。モダンな「作品」だ。でも、それこそが新たに、今こそ必要とされる神聖化なんじやないの？

片山という人には、クラシック音楽のシャープな批評家として前から書くものにチラチラと触れてきた。優雅でリベラルな顔をした新王党派という立ち位置にはすでに長い伝統がある。例えばモーツアルトを語る小林秀雄。そして音楽家というヤツは「魔法使い」なのだ。「中庸のおじさん」内田樹なんかよりヤバイよ。たしかに本の三分の二ほど「天皇」という政治」をめぐる冷静な分析が続いた後、「人はいきなり煙に巻かれるのである。合理的説明から一転、想像されたアキヒトの「人となり」に寄り添うという、不可解な転調が訪れる。

片山の語りは鮮やかなマジシャンのそれである。島薗も幻に醉いたかつたように読める。ところが「王」というのは政治的な体と自然な体が折り重なつた想像上の怪物でしょ。そのダブルイメージを腑分けしたうえで、さらにもう一度合体して、そこから生まれるおどろおどろしい大魔術を解き明かすのが学知の仕事では、と思うのだが。

さて、ちょっと頭の隅に残つたのは「聖徳」という言葉である。神宮外苑に「聖徳記念絵画館」という石造りの建築がある。あの丸いドームがウイーン分離派もどきというのは後知恵だ。子どものころ外苑に遊びに行くと「あれはなに？」と思っていた。その「聖徳」は、福祉制度がない「明治」に救貧院や恩賜済生会や慈惠会のような病院、そして「国見」（巡幸）で貧乏人に慈愛を示すことがもっぱらの意味だという。あのドームの下には、そういう慈しみ深い「大帝」の姿を描いた絵ばかりが収め

られているらしい。

外苑のグランドで真冬に半ズボンで野球に夢中だったガキどもはそんなことは知らなかつた。この「聖徳」が福祉が消えて再びビンボーがあふれる時代に甦るというのである。

■タンスの無意識

というわけで、このところ「タンス」のことを考えている。

どういうわけなのか？ 総桐の箪笥ではない。「タンス預金」のことだ。いくらなんでも今どき引き出しの奥にこつそりと現ナマを隠す人はいな

いだろうから、利子がほぼゼロの銀行預金である。これがなんと国内に一八〇〇兆円もあるというのだ（二〇一七年三月の日銀統計）。この数

字には金持ちの口座も含まれているから、全額に「タンス預金」という形容は似合わない。それでもチリが積もつた小口の口座がけつこうあるだろう。そして庶民の先祖代々からの教えは「タンス預金に手をつけるな」に決まっているのだ。

この古臭い言い伝えが頑強である。三種あるNISA口座（個人の株式投資一二〇万円／年まで非課税など）の開設数も稼働率も思つたほど伸びない。「一億総株主化！」なんてハッパをかけられても踊る人は多くないのである。「国家オレオレ詐欺か」と内心は思つている。マイナンバーの縛り、利息ゼロとマイナス金利、年金消滅など、「びた一文も出さない」という人々の不安な岩盤はテコでも動かない。

「憲法の無意識」というキャッチをひねり出した知識人もいたが、戦後が蓄積したという意味ではこういう「タンスの無意識」もあるだろう。事実、国債一〇〇〇兆円という「國家破産」直前の崖っぷちをどうにか持ちこたえているのは、高度成長やバブルの時代に蓄えられたこの小口預金の誘惑らしい。一部のエコノミストは言う。いざとなれば、日銀を国有化してタンスの中身を吸い上げればいいんじゃないか。長期国債保有者のうち外国籍は五%しかいないから――。

「すべては身内の借金」という根も葉もない安心感だ。だからずるずると量的緩和とマイナス金利を続けるしかないという。戯言である。しかし「そのうちなんとかなるだろう」という内心の思いは土建屋業界の人間たちだけではないんだな、これが。

「憲法の無意識」は実はこういう「タンスの無意識」に支えられている。そこを見たくないから江戸の幻に逃げ込んでしまう。いわば、憲法一条も九条も、一二条や二五条もシャツターブル街の家の中、そのタンスの引き出しにしまわれているのである。ボロボロになつた土地の権利書のように。これが、国会前になんか行かない、投票にも行かない庶民たちの「だんまり」の中身だろう。

■聖徳マジック

ところがだ。そうは問屋が卸さない。

年金の減額や給付の先延ばしは言うに及ばず、シャツターブル街への課税強化法案が今年にも上程されようとしているのである。固定資産税の減免措置を解除して六倍にしようという「地方活性化」の素晴らしいプランである。閉めた店舗を貸さず売らず、ひたすらタンスにしがみつく人たちをむりやり引き剥がそうというのだ。

だけど、と誰でも考えつく。地方の町角には人も犬の糞さえ目につかない。地方の町を歩く「鶴瓶の家族に乾杯」のようなテレビ番組はそれが映らないように苦労しているという。まあ映つてるけどね。自治体は人口減少地を放置する方向に向かつている。稅収激減でとても支えられないからだ。こういう地域ごと蒸発する趨勢の中ではどんな活性化も、まして文化開発的な「ジエントリフイケーション」も成り立つわけがない。土建屋情報によればオリンピック需要はとっくに終わりで、リニア新幹線が次の美味しいエサだという。ヨダレが出る。しかし当然、リニアは地下を直線でぶつ飛ぶだけ。大規模開発など二〇世紀の産業遺産から産業廃棄物になつた。地上に残されるのは茫茫たる無人地帯。要する

にシャツターハウスの住人は税金だけが残ってしまうのである。田舎だけではない。東京都心部以外はみなそうなる。

福祉なき非正規層のセーフティネットは「親のタンス預金、親の年金、親の家」だった。東京バブルが終わり親たちが死んで、これがすべて消滅する。富田克也監督の『国道二〇号線』以来、ずいぶん地方破滅ドラマを観たが、すべてハンパ。それでもタンスの中身は日々刻々とカラッポに近づく。残酷なのは全世代フリーランスである。今や派遣される先も高齢化しているから七〇歳でもOKである。ある時はがん患者三人で、ある時は二三人ものチームを指揮する自分がいい例だ。非正規問題が世代間抗争にすり替えたのは遠い昔のファンタジーなのだ。

そこで「聖徳」の登場というわけだが、そんなものが何の役に立つか?

実証史学では存在しないに等しい「聖徳太子」が偶像化されたのは明治の聖徳時代でしょう。そういう「聖徳の魔法」を知つてか知らずか、呆れるほど多くの人たちが来るべき「上皇」さまになびいていく。連中のタンスはカラジャないからだ。先代は戦争責任を「文学」と言つたが、まさに言葉を操る夫婦なのである。では「文学」は魔法なのかって? こいつは難しい。タンスも文字もドロドロに溶かして、大竹伸朗も逃げ出す怪物を創り出さなくちゃ。やっぱり「悪魔払い」だと言つておこう。

■魔術からの逃走

どんな「魔法」でも喰えるわけがない。だからどうにかして逃げ道を探るのである。

そのひとつが「メルカリ」というフリマアプリの急成長である。つまりネット上のフリーマーケットのことだ。もう使わないバッグとか、着なくなつた衣類を写真に撮つてサイトにアップし、買いたい人を企業が媒介して直接やり取りする。YAHOO!はオークションだが、こちらは個人の中古専門で定価以上の売買は禁止である。メルカリってのはラ

テン語の「商い」だ。手軽と安心を売りものに、アメリカやイギリスにも展開はじめた六本木ヒルズ企業である。去年一二月の時点で国内では四〇〇〇万ダウントーンを超えた——とまあ、IT業界はいう。

面白いのは現ナマが出品されたこと。一万円札に一万三五〇〇円の値をつける。つまり、ヤバい手でつかんだ番号登録済みのピン札を別の万札にすり替えるのだ。その手数料が三五〇〇円とはねー。マネーロンダリングである。ただちに削除されたが、「ばつたもん」も出る。ネット香具師みたいなもの。まあ「電腦闇市」かな。

こういう中古リユース市場がネットで巨大化するのは、資本主義が縮小する始まりになるかもしれない。売り回され使い回されるうちに付加どころか商品価値が減少していくからだ。生産システムはどうに国際化したが、消費はグローバルに縮小再生産していく。

けつこうではないか。もちろん、シミつきの上着やコートをタダ同然で買い集め、京都の老舗染物屋で真っ黒に染めてアート系高付加価値商品に仕立てるなど、企業もなんとか延命しようとする懸命だ。もともとフリーターは人間のリユースである。女も男もボロ布になるまで使い回される。それでも人口が減る縮小再生産なのだ。いずれメルカリに人が出品される日が来る。オレはいくらで売れるんだろう? もう値がつかないね。

某グローバル戦略研究所の主幹は「今なら中国の貧困層を追いつめてまだ耐える」とアケスケなことを言う(『日経ビジネスonline』)。ここには「国内の」という含みが隠されているのだ。「聖徳の魔法」にいかれても一銭にもならない。電腦闇市じやなくとも、聖徳の幻術から逃げる術は意外な道ばたに転がつていいだろう。それを探そーザ。



「明治日本の産業革命遺産」と強制労働～日韓市民による世界遺産ガイドブック

蝙蝠

「世界遺産」を冠にする広報やメディアの報道・番組を目にすることが多くなった。特にテレビ番組ではほとんどがアイデアも表現も一〇年一日のけたたましいシロモノばかりで、できるだけ遠ざけているのだが、「世界遺産」を紹介するという体のものはそれでも比較的おとなしめなつくりにしていることが多い、ふと流し見していることがある。

国連ユネスコは、その活動に求心力を持たせるために、この「世界遺産」の選定を活用してきた。確かに、ユネスコ憲章にもあるように、「文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは人間の尊厳に欠くことのできないもの」として、「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」を共同で保存していく活動というものは意味があるだろう。とりわけ「近代化」が世界大となる中で、経済活動や文化衝突によって多数のものが「遺産」とさせられてきた。なかでも植民地化や資本主義化を爆発的に進めた国家や集団は、そのしばしば犯罪でしかなかつた活動によって喪われた何くれに対しても、重大な責任を持つており、その保存や意味づけを行なつていくべきだと思う。文化や「文化財」の「保護」は、それを踏みにじってきた歴史から考えるならば、欺瞞そのものだというしかないが、それでも、その固有の価値を確立するための努力や体制は、政治や経済活動その他による蹂躪を少しでも許さないために、怠つてはならないものだ。

しかし、近年になって、日本政府やその外郭団

体、利権集団によつて推進されている「世界遺産」採択活動は、対象の選択も恣意的きわまり、そのほとんどがおぞましいものでしかない。ちなみに、民間において「世界遺産」申請に圧力をかける中には記紀を根拠とする宗像三女神を祀つた神社や島嶼を「神宿る島」としたものだが、このパンフレットが批判している「明治日本の産業革命遺産」もまた、その典型的なものだと言えるだろう。この件では、前川前文科事務次官によつて、文科省の審議会に安倍政権が介入して、木曽、和泉、加藤などその利権グループを「有識者会議」に押し込んだ経過が明らかにされている。制定の過程では「一般財団法人産業遺産国民会議」なるものも立ち上げられた。

「明治日本の産業革命遺産」では、九州と安倍の地元の山口県の施設を主として登録された。産業革命に関連が深いとは言えない「松下村塾」や萩市城下町などもしっかりと盛り込まれている。しかし、この登録における問題は、それだけではない。このパンフレットは、90ページほどに過ぎない小さなものが、文章だけではなく図版を多数盛り込んで、さまざまな方面からこの問題を浮き彫りにしている。これまで韓国の側から歴史の発掘と資料の収集・出版に取り組んでいた「民族問題研究所」と、日本の側でこうした活動を展開してきた「強制労働真相究明ネットワーク」の共同で制作されたもので、この問題を今後も究明していくという意思を明らかにしているのだ。読みやすく、しかも内容は細かくて、テキストとしても優れている。ウェブ上で公開されているが、ぜひひとも購入して活動を支援していただきたい。

「明治日本の産業革命」は、それ自体が正の「価値」づけをされるようなものではなかつた。資本形成期の資本主義は、本質的に労働剥奪的なものとして展開された。明治期の大日本帝国においては、「資本主義」の展開は、まさに侵略政策のただなかでその実体化として進められた。国内的には産業労働者として農民層を解体し、対外的にはそれに加えて植民地化された朝鮮などからの労働者の動員と強制労働がなされた。こうした経過は世界遺産

としては後景に伏せられ、産業化の「栄光」とそれを推進した企業や個人の顕彰ばかりがなされている。登録時には、「戦時の朝鮮半島出身者の徴用は強制労働ではない」とまで主張している。強制労働や暴力についての指摘には、産経新聞やネット右翼などまで総動員して、これをもみ消そうとしているのだ。

このパンフレットは、90ページほどに過ぎない小さなものが、文章だけではなく図版を多数盛り込んで、さまざまな方面からこの問題を浮き彫りにしている。これまで韓国の側から歴史の発掘と資料の収集・出版に取り組んでいた「民族問題研究所」と、日本の側でこうした活動を展開してきた「強制労働真相究明ネットワーク」の共同で制作されたもので、この問題を今後も究明していくという意思を明らかにしているのだ。読みやすく、しかも内容は細かくて、テキストとしても優れている。ウェブ上で公開されているが、ぜひひとも購入して活動を支援していただきたい。

強制労働真相究明ネットワーク／民族問題研究所
〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1
(財) 神戸学生青年センター内
<http://ksyc.jp/sinsou-net/sekaiisann-g-book.pdf>
送料込み五〇〇円
郵便振替〈00930-9-297182 真相究明ネット〉

「老衰」のため」という福富節男さんの死去の連絡は、「日本はこれでいいのか市民連合」から、私たち「反天皇制運動連絡会」に移ってきて熱心に活動し続けたという、めずらしい経歴の事務局メンバーであった八坂康司から来た。「一二月一八日」に亡くなられたと、福富さんと、運動上の付き合いの長かつた八坂はつたえてくれた。九八歳の誕生日をこえた後の死であった。

八坂の電話の後、福富さんとともに動きまわった日々の断片的シーンが、いくつもいくつも私の頭の中に浮かんできた。本当にささまじい数の會議をデモを、大小さまざまなか集会をともにつくってきたのだ。

最後のデモのシーンは、良く覚えている。糖尿病の悪化で、ほとんど歩くことができなくなつていた私は、デモの宣伝カーに乗り込んでいた。デモの出発地点、いつもの通り右翼の暴力的介入で大混乱。殴りかかりつつ「非国民死ネ!」などといふ罵声をあげる暴力の渦の中を、福富さんがゆっくりと歩いて来たのである。車の窓の外から、私に何か手渡そうとする。私は危険を感じて、いそいで窓をおろして対応すると、「勉さんの食事管理のためのノートと血糖測定機だ。気をつけて生きてくれ」と短くつたえて、福富さんはスタッフと一緒に歩き去つていった。そのノートは家に帰つてどううものか理解できたのだが、糖尿病の大先輩である、渡辺勉さんの日々の三食のメニューをこまかく書き込んだものであった。福富さんが、わざわざ彼の長い友人の勉さんのところから持参してくれたのである。私は、九十歳を超えていたであろう福富さんが、こんな危険な場所から、無事にひきあげられるだろうかと、ハラハラしながら

ら、その背中を見送つたことを、昨日のことのように覚えている。おそらくそれは、「デモ暮らし」の人生を自認していた福富さんの最後のデモ参加だつたのではないかと、いま思う。

もう一つの思い出のシーンは、一九八八年の四月二九日・三十日に、のべ二千人をこえる参加者で持たれた昭和天皇の「代替りの政治」プロセスでの、都内大結集の一派の準備の時間だったと思う。私たちは、いくつもの分科会をつくり、ここで広く反天皇制の声を結集させなければ、次のステップはないという思いで必死の努力、自分たちの力量をまったく超えたことの実現のための

追悼・福富節男さん

反天皇制運動の中での交流

天野恵一

努力をかさねていた。「共同行動」の事務局の会議（作業）はほぼ連日深夜まで続いていた。その渦中のある日の事である。場所はハッキリしないが、深夜に福富さんと私は奇妙に大きな電話ボックス（どこか人のいない高速道路の中にでもあるようなそれ）の前にいる、そして福富さんが海外電話のためのそのBOXに入り、電話をし出していく。そして「残念、ダメだった。ドイツからは帰国しているんだが、その翌日のスケジュール、無理はお願いできなかつた」と、本当に残念そうに告げる。「しかたないですね」と答えながら、私は、その時この局面で、ささまじい数の講師への発言

集まりを広げるべく、私たちはとても思いつかない（ただし交渉しだいでは出てきてもおかしくない）加藤周一さんの名をあげ、直接交渉までしてくれた彼と私は、深夜の車道を、「代わりは誰がいいかな?」などと話しながらトボトボと歩き続けた。この深夜のトボトボ歩きは、結果的には、思いもかけぬ大結集をうみだしたこの「反天フオーラム」の時の忘れられない思い出の一コマである。

私たちの反天皇制の「共同行動」のリーダー層は、セクトであれノンセクト（あるいは党派をやめた人）であれ、ほぼ大学で全共闘運動の体験者であつた（もちろん、それ以外の人も少なくなかつたが）。共通していたのはひたすらソフトな「市民（主義）運動」への、強い反発であつたと思う（これも、またそうでない人もいたが）。だから、あのような大衆的な広がりをつくりだす力量はな

かつたと思う。猪突猛進の「心情の急進主義者」の群れだったのだから。福富さんは、その群れの内側から、私たちの偏狭さを、とりはらうべく、したたかに動き続けた。私個人でいえば、彼が「ベ平連」などの活動を通して知っていた、実に多様でユニークな人々と交流する機会を、数かぎりなく作ってくれた。人と人の出会いは、自然に人を変える（自己相対化の契機になる「出会い」というものは、まちがいなくある）。福富さんと歩いた運動プロセスは、そういうことだったのだ（それが徹底的に少数派を約束された反天皇制運動を思いもかけず大衆的に拡大する主体的契機となつたのだ）。福富さんは単なる「市民運動」者ではなかつた。東京農工大の教師をしながら、自分が処分された日本大学の全共闘運動に加担する活動（日大闘争救援会）の経験もあり、「全共闘」の急進主義をハラハラした気分で見まもるというボジションは馴れていたのだろう。私たち硬直した運動のスタイルをもみほぐし続けてくれたのだ。楽しくラッキーな交流であつた（もちろん、彼に反発し続けた党派のリーダーなどもいたのだが）。

私は、こういう認識を、共に運動を歩き続けていた時点では、ハッキリと持つていたわけではまるでない。後の時間で運動をふりかえり、そうだったんだナーと強く思ひだしてきたのである。

ただ「遅刻魔」であった福富さんは（これは私はあまり人のことを言えた義理ではないが）、やはりひどくゆっくりと変化する人でもあつた。私たちの運動の中で彼も実は大きく変わつたのだ。このことを示す、断片的シーンを、最後にもう一つだけ紹介する。私（と松井隆志）のあるインタビューに答えて、彼は、天皇制の問題や自分

の天皇の軍隊の体験について正面から考えだしたのは、「天野くんたちの反天皇制運動を通してだ」とかつて証言している。自分は、軍人だった戦中したたかに動き続けた。私個人でいえば、彼が「ベ平連」などの活動を通して知っていた、実に多様でユニークな人々と交流する機会を、数かぎりなく作ってくれた。人と人の出会いは、自然に人を変える（自己相対化の契機になる「出会い」というものは、まちがいなくある）。福富さんと歩いた運動プロセスは、そういうことだったのだ（それが徹底的に少数派を約束された反天皇制運動を思いもかけず大衆的に拡大する主体的契機となつたのだ）。福富さんは単なる「市民運動」者ではなかつた。東京農工大の教師をしながら、自分が処分された日本大学の全共闘運動に加担する活動（日大闘争救援会）の経験もあり、「全共闘」の急進主義をハラハラした気分で見まもるというボジションは馴れていたのだろう。私たち硬直した運動のスタイルをもみほぐし続けてくれたのだ。楽しくラッキーな交流であつた（もちろん、彼に反発し続けた党派のリーダーなどもいたのだが）。

私は、こういう認識を、共に運動を歩き続けていた時点では、ハッキリと持つていたわけではまるでない。後の時間で運動をふりかえり、そうだったんだナーと強く思ひだしてきたのである。

「さて私は嫌いな人がたくさんいます。……しかしなんと言つても最も嫌いなのは昭和天皇です。嫌いと言つただけでは私の気分になつてしまひますから、きちんとというと、これほど無責任で、そして卑劣な人間は古今いない、その辺にいる卑劣な大臣・議員とか官僚とかはこれに比べるとチンピラです。昭和天皇ほど無責任で、卑劣な者はいない。こういう話を五分で論じよというのは残酷すぎますよね。ですから資料としてはニューヨークタイムズの敗戦、終戦前後の見出し、それから皆さんが見てないでしようけど、昭和天皇の天皇」をこきおろした。

「平成の代替わり」の政治過程の時間の中で亡くなつた福富さんとのしさやかな追悼的回想をして、反天皇制運動の「経験」史は、語られるべきこと、歴史的に整理されるべきことが、またたくほうり出されたままであるという実感を強く持つた。この状況でこそ、それは果たされなければなるまい。それは福富さんが私たちに残した課題だ。

福富さん、楽しくそして大切な運動の時間を共有してくださつて、本当にありがとうございました。

の天皇の軍隊の体験について正面から考えだしたのは、「天野くんたちの反天皇制運動を通してだ」とかつて証言している。自分は、軍人だった戦中も天皇信仰なんなかつたし、戦後は、どうでもいいものと考へてきた時間が長かった、軍隊体験なんて、ふりかえりたくもない嫌なものでのみあり続けた、とその時語つていた。運動を生きた後の彼の天皇制認識の結論はどういうものであつたのか。それをストレートに示す発言が残されている。「日の丸・君が代」の強制反対の意思表示の会の二〇〇〇年十月二八日のリードイン・スピーカーアウト集会での発言である。この短文を読み、自分の意見を短くコメントするというスタイル（発言者は多数）の集まりで福富さんは、こう「昭和天皇」をこきおろした。

別殺傷爆弾攻撃があつた事実を忘れたのごとき「原爆やむを得なかつた」発言である。この後、彼は天皇の「人間宣言」なるものの「朕と国民との間の紐帶は」のくだり、相互の「信頼と敬愛」で結ばれている、との言葉を引き、「もう絶句しどうですか、これでやめます」と話を結んだ。

主催者発言をし、司会者としてその壇上にとどまつていた私は、決して激しく個人を断罪し断定する政治主張をすることなどなかつた（そういう「急進的スタイル」を嫌つていた）。彼の発言に、本当に驚いたことをよく覚えている。それは、私たちが励まされてきた「戦中派」の渡辺清さんや平井啓之さん（ともに、「わだつみ会」）の、天皇個人への非難を突き抜けて象徴天皇制それ自身の全面否定へいたる心情と論理が、のりうつたかのごときものであつたのだ。

（天皇（制）だけはなにがあつても許してはいけない）。その時、そのメッセージは、私の胸にストンと落ちた。

「平成の代替わり」の政治過程の時間の中で亡くなつた福富さんとのしさやかな追悼的回想をして、反天皇制運動の「経験」史は、語られるべきこと、歴史的に整理されるべきことが、またたくほうり出されたままであるという実感を強く持つた。この状況でこそ、それは果たされなければなるまい。それは福富さんが私たちに残した課題だ。

福富さん、楽しくそして大切な運動の時間を共有してくださつて、本当にありがとうございました。

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく 93



ソ連の北方四島占領作戦は、米国の援助の下で実施されたといつ「発見」

一九四五年二月、米英ソ首脳によるヤルタ会談で、ソ連の対日参戦が決定された。同年八月九日、米軍による長崎への原爆投下と同じ日、ソ連軍は樺太南部と千島列島に投入された。さらに八月二八日からは、押送、国後、色丹、歯舞の北方四島占領作戦が展開された。各島で日本兵の武装解除が行なわれ、九月五日、ソ連軍は四島を制圧した。

ここまで、従来もよく知られた歴史である。八月一五日直後の状況下で、スターリンが北海道占領計画なるものを提示し、これをトルーマンが拒否したこととも知られている。いつ頃のことだったか、スター

リンが夢想した北海道占領案を地図上で知ったことがあった。それによると、釧路と留萌を結ぶ線を引き、その北東部分をソ連が占領することになっていた。そのとき二歳で、釧路に住んでいた私は、ソ連占領下に生きることにもなり得たのだつた。権謀術数の駆け引きに拠つて成立している国際政治の在り方如何によつては、所与の地域に生きる（とりわけ、敗戦國や勝者に占領された国）の民草の行く末などはいかよにも翻弄され得るのだという、世界政治に対する私の基本的な視点は、この段階で定まつた。二一世紀に入つて四半世紀、このことが、アフガニスタン、イラク、シリア……などアラブ地域の国々で繰り返されているさまを、私たちは目撃し続けている。背後で蠢いているのが、米国とロシ

ア（旧ソ連）であることにも変わりはない。これが、人間の歴史に対する諦観をわれらが裡に育てるものなのか、もつと深く絶望を植えつけるものなのか、それとも——ここでは、問うまい。

さて、上に触れた歴史を受けて、北方四島問題を国家帰属に関わるそれとして捉えて角逐し合っているのが日露の両国家だが、そこは、近代国家成立以前には先住民族の土地であつたことを考へるなら、歴史哲学的にはこの契機を挟むことなく、ことを「領土問題」に凝縮して解決を図ることの「不可能性」が浮かび上がる。この点を指摘したうえで、次へ進もう。日本が敗戦した一九四五年以降七三年間ものあいだ揺るぐことのなかつた「ソ連対日参戦」の事実に新たな視点が付け加えられたのは昨年末のことだつた。ソ連の北方四島占領を「米国が援助し、極秘に艦船を貸与し訓練も施していた」事実が明らかになつたのだ（『北海道新聞』一七年一二月三〇日朝刊）。冒頭に触れたヤルタ会談の直後から、共に連合国であった米ソは「プロジェクト・フラ」（Project Flare）と呼ばれる合同の極秘作戦を開始した。内容は以下のごとくであつた。米国は四五年五～九月、掃海艇五五隻、上陸用舟艇三〇隻、護衛艦二八隻など計一四五隻の艦船をソ連に無償貸与し、四～八月にはソ連兵約一万二千人を米アラスカ州コールドベイ基地に集め、艦船やレーダーの習熟訓練を行なつ

た。これら一連の訓練は、四五年八～九月の「実践」で役立てられた。四島占領作戦に参加したソ連側の艦船数は一七隻だったが、そのうち一〇隻が米国から貸与されたものだつた。

つまり、ソ連の勝手なふるまいと考えられてきた北方四島の電撃的な占領作戦は、米ソをトップとする連合国の大作戦であつた、ということになる。こんなこともあるのか、と思えるほど、歴史的な「一大発見」ということになる。発見者は二〇一五年來北方四島の遺産発掘・継承事業を行なつている根室振興局である。各国の資料に当たる中で、サハリン及びクリール諸島上陸作戦に参加した軍艦リストを調査した一ロシア人学者の二〇一一年度の研究が糸口になつたようだ。調べてみると、米の元軍人リチャード・ラツセルが二〇〇三年に『プロジェクト・フラ』を書いて、この極秘プランの内実を著してもいる。これが最初の研究だとすれば、やはり真相は六〇年近くも秘されてきたということになる。

この場合は、国際関係の微妙さを口実とした「隠蔽」だつたのか、よくわからぬ。時代の制約の中に生きる人間の問題意識・歴史認識の水準に帰すべき場合もあるう。近着の『極東書店ニュース』六四三号電子版を見るにつけても、学生時代以降半世紀間見続けて読書の指針にしてきたこの学術洋書案内に見られる内容の変化は著しい。ジェンダー研究、女性史、移民史、移民問題、少数民族、人種問題、環境問題などという書目分類は昔ならあり得なかつたが、昨今は際立つて冊数も多い。国際政治ゆえの「隠蔽」の力が作用しているのか、それともわが認識水準が及ばないのか、いずれにせよ、歴史にはこんなことが起こり得るのだ。

まだ真相に行き着いてはいないのではないかといふ恐れをもつて、歴史に向き合いたいのだ。

式に出席。

【1月10日】

天皇・皇族◆明仁、美智子が皇居・宮殿「松の間」で、年頭に当たり、さまざまな学問の第一人者から講義を受ける「講書始の儀」に臨む。徳仁、雅子や秋篠宮、紀子ら他の皇族が出席。

「慰安婦」問題◆韓国の文在寅・大統領が、「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」にソウルの大統領府で年頭の記者会見を行ない、旧日本軍の「従軍慰安婦」問題を巡る2015年の日韓政府間合意について「日本が心から謝罪するなどして、被害者たちが許すことができた時が本当の解決だと考へている」。

【1月11日】

明仁、美智子◆宮内庁の山本信一郎長官が定例記者会見で、明仁、美智子が前年まで3年連続で観戦している大相撲初場所について、当年は取りやめとなつたと明らかに。前年10月に日本相撲協会から招待を受け、検討していたが、元横綱日馬富士閥による暴行事件などを受け、当週に入つて協会から「昨今的情勢を踏まえて辞退したい」と申し入れがあつたとして「両陛下も残念に思つておられるだろう」。

【1月12日】

天皇・皇族◆新春恒例の「歌会始の儀」が皇居・宮殿「松の間」で開かれ、明仁、美智子や徳仁、秋篠宮、紀子と眞子ら皇族が出席。雅子は見合わせる。明仁、美智子◆3月下旬に、沖縄県を訪問することが、宮内庁への取材で分かる。27～29日の2泊3日で、那覇市を拠点と

し、日本最西端の与那国島にも初めて足を運ぶ予定で、2人が再訪を希望したと報道。

彬子◆宮内庁が、故寛仁の長女彬子が、トルコの考古学研究を支援する三笠宮記念財団の総裁に就任したと発表。就任は財団が設立された前年3月7日付と報道。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

「慰安婦」問題◆安倍晋三首相が、「慰安婦」問題でさらなる謝罪を求める文在寅・韓国大統領の新方針を拒否する考え方を表明。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

明仁、美智子◆阪神大震災の発生時刻に合わせ、皇居・御所で黙とう。／宮内庁を通じ、平昌五輪に参加する日本代表選手団に金一封を贈る。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

明仁、美智子◆東京都文京区の印刷博物館を訪れ月刊保育絵本「キンダーブック」の歴史を振り返る企画展「キンダーブックの90年－童画と童謡でたどる子どもたちの世界－」を鑑賞。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

明仁、美智子◆東京都港区のサントリー

明仁、美智子◆東京都港区のサントリーの90年－童画と童謡でたどる子どもたちの世界－」を鑑賞。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

明仁、美智子◆東京都文京区の印刷博物館を訪れ月刊保育絵本「キンダーブック」の歴史を振り返る企画展「キンダーブックの90年－童画と童謡でたどる子どもたちの世界－」を鑑賞。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

明仁、美智子◆東京都港区のサントリー

明仁、美智子◆東京都港区のサントリーの90年－童画と童謡でたどる子どもたちの世界－」を鑑賞。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

明仁、美智子◆東京都文京区の印刷博物館を訪れ月刊保育絵本「キンダーブック」の歴史を振り返る企画展「キンダーブックの90年－童画と童謡でたどる子どもたちの世界－」を鑑賞。

「歌会始」◆翌年の歌会始の題が「光」に決まり、宮内庁が応募要領を発表。

との整合性、皇室の伝統に即したものであるとの二つの観点で検討を進めるべきだ」などの指摘があつたとしているが、発言者名は菅官房長官の冒頭あいさつを除いて非公開だつたと報道。

【1月17日】

明仁、美智子◆阪神大震災の発生時刻に合わせ、皇居・御所で黙とう。／宮内庁を通じ、平昌五輪に参加する日本代表選手団に金一封を贈る。

【1月18日】

明仁、美智子◆阪神大震災の発生時刻に合わせ、皇居・御所で黙とう。／宮内庁を通じ、平昌五輪に参加する日本代表選手団に金一封を贈る。

監督会議が東京都内で行われ、日本オリエンピック委員会の山下泰裕・選手強化本部長がカヌーの禁止薬物混入問題などスポーツ界での不祥事が続いたことを踏まえ「われわれは一個人として五輪に参加するわけではない。日本人の代表として五輪に参加する。日本の丸をつける自覚、覚悟、誇りは、決して失ってはならない」とあいさつ。

【3・11】◆政府が閣議で、東日本大震災から7年を迎える3月11日午後、東京都千代田区の国立劇場で追悼式を開催することを決める。明仁、美智子は前年に続き使公邸で開かれ、翻訳したボン大名誉教授の日本学者ペーター・パンツァー「この50首に皇后さまのこれまでの人生が詰まっている」。

【3・11】◆政府が閣議で、東日本大震災から7年を迎える3月11日午後、東京都千代田区の国立劇場で追悼式を開催することを決める。明仁、美智子は前年に続き使公邸で開かれ、翻訳したボン大名誉教

出席せず、秋篠宮、紀子や安倍晋三首相、閣僚らが出席すると報道。

【3・11】◆政府が閣議で、東日本大震災から7年を迎える3月11日午後、東京都千代田区の国立劇場で追悼式を開催することを決める。明仁、美智子は前年に続き使公邸で開かれ、翻訳したボン大名誉教

17・12・23 民主主義と天皇制
代替わりにあたり改めて問う

漢官の「如火相上」

二〇一六年八月、生前退位のメッセージを発した天皇によって、これから始まる、一連の代替わりの儀式に対して、改憲に反対する人たちの中からも、このことを問題視するところがほとんどない、という状況の中で天皇制が持つ意味を改めて問いたいと企画した。

私たちちは継続的に天皇制の問題に取り組んできたわけではないが、自民党的な憲草案は、天皇の元首化も内容に盛り込んでおり、向こう側にとつては九条と一条は、これから日本の「国柄」を決める重要な条項であることは間違いない。講師の鶴飼哲さんは、それにプラスして

二〇二〇年のオリンピックを問題だと指摘された。二〇二〇年のオリンピックは、新天皇のもとで改憲をした新生日本のお披露目の場のためにあると。

そして、今回の現天皇の「生前退位」は、退位を求めるによつて、ヒロヒト天皇が固執したが排された天皇の発議権を

【1月23日】
美智子◆毎日放送（大阪市）が、同社が制作している教養バラエティー番組「教えてもらう前と後」で美智子の写真を使用した際、撮影時期を誤つて放送したと発表。同社によると、番組は9日夜、TBS系で放送され、当時皇太子だった明仁が「ご成婚前に撮影されたお写真」と説明していたが、実際は「ご成婚」後の1963年に撮影されていたもので、視聴者の指摘で判明したとして、同社広報部「事実確認が不十分であり、関係者の

地裁（森純子裁判長）で結審。女性側は、政府がミサイル発射に備えて自衛隊の迎撃を可能とする破壊措置命令を常時発令しており、緊張状態にあると指摘、原発が攻撃されれば関西圏に影響をもたらす危険があるとして運転を止めべきだと主張。関電側は「具体的な危険は切迫していない」と申し立ての却下を求めており、女性側の弁護団によると、地裁が年内に決定を出す方針を示したと報道。

明仁、美智子◆皇居・宮殿で、農業や産業などで優れた成果を上げた農林水産祭の天皇杯受賞者7組14人と面会。東京五輪経費◆東京都が、準備が本格化する2020年東京五輪・パラリンピックの大会経費と都が進める関連事業の経費で、20年度までに約1・4兆円が必要になるとの試算を初めて公表。改憲◆安倍晋三首相が参院本会議で、憲法「改正」に関する世論調査結果を引き合いに出し、改憲に改めて意欲を示す。

東宮女官◆宮内庁が、東宮女官安東博子の依頼退官の人事を発表。

歴史認識◆自民党が、近現代の歴史を検証する「歴史を学び未来を考える本部」の会合を党本部で開き、1931年の柳条湖事件に始まる満州事変をテーマに意見交換。北九州市立大基盤教育センターの小林道彦教授が講演し、日本による中國東北部占領の経緯や当時の政治状況を説明。出席者から「(満州事変を主導した)関東軍の暴走を許した背景は何か」「当時の昭和天皇はどんな役割を果たしたのか」などの質問が出たと報道。

弾道ミサイル訓練◆東京都と国などが、他国から弾道ミサイルが飛来したとの想定で、文京区の東京ドーム周辺にある地下鉄駅や遊園地などで、住民ら約350人が参加し避難訓練を実施。

核搭載型米爆撃機◆航空自衛隊のF-15戦闘機と米空軍の核兵器搭載可能なB-52戦略爆撃機が、東シナ海上空で共同訓練したことなどが防衛省への取材で分かる。

米軍機トラブル◆小野寺五典・防衛相が、在日本軍の航空機やヘリコプターによる事故・トラブルが17年は25件発生し、16年の11件から2倍以上となつたと明らかに

皆さまに多大なるご迷惑をお掛けしました。おわび申し上げます」。
献上ガニ◆福井県坂井市の魚問屋で、県
特産の冬の味覚「越前ガニ」を、明仁、美智子や皇族に贈るため釜ゆでにする作
業が行われる。1922年に始まり、戦
時中などを除いて続く恒例行事で、県職
員が24日に皇室へ届けると報道。

手団の結団式に出席。
大逆事件◆和歌山県新宮市が、市出身で
明治末期の大逆事件で処刑された医師大
石誠之助（1867～1911年）をタマ
誉市民にすることを決め、遺族代表に妻
彰状を贈る。

【1月29日】秋篠宮、紀子◆6月に、米ハワイを公式訪問する方向で宮内庁が検討していることが、同府関係者への取材で分かる。滞在は約1週間で、日本人がハワイに移住して今年で150周年となることを記念する式典などに出席し、あいさつする見通しと報道。

手の結式に出席。

1
月
29
日

得て政治的な復権を果たしたが、もちろん、このことは憲法四条違反であると指摘された。

私の周りでも、改憲や戦争法には反対という人でも、憲法を守らないひどい安倍より今の天皇は平和主義者でまし、といふ意見を結構聞く。確かに個人のキャラはそうかもしれないが、天皇制は国家機構の重要なイデオロギー装置である。個人のキャラで左右されるものではなく、役割を持っている。鵜飼さんは、その役割を「思考停止の装置」「除外装置」「忘却装置」としてあると言われた。そもそもなぜ天皇制があるという素朴な疑問すら発することが憚られる状況が作られ、「国民」の枠から外れたものへの不利益などなお思い当たることは多々ある。

そして、改めて「主権」を問い合わせ直す作業が必要ではないかと指摘された。日本国民の総意による象徴天皇の規定と、「日本国民たる要件は、法律でこれを定める」とする一〇条によって「国民」の埒外に置かれる人たちがいる。一条と一〇条の隠れた対応関係こそ日本国憲法の「トロイの木馬」だと。私自身、運動の間で「国民」という言葉を使わないようにしていられる。まずそのことに自覚的にならなければ、天皇制問題の本質が見えないのではないかと思う。ハードルは高いが、今の状況だからこそ原則的なことを訴えていい。

(三木みゆき)／ト戦へのネットワーク・名古屋

反「昭和」、
を通じて、「平成」代替わりを考
える

る闘いで私たちが学んだこと」の三点について話された。

最後に、天野さんが、一九六〇年代学

生運動経験者や新左翼の人々が一九八〇年代中盤に取り組んでいた反天皇制運動が、反「昭和」Xデー闘争に取り組む過程で、福富節男さんなど旧「ベトナム」の人々や、「平和を！市民連合」の人々や、靖国問題

に取り組むキリスト者の人々、わたつみ会の平井啓之さんなど戦後民主主義の流

れを汲む人々と出会い、シングルイシューで新たな共闘を広げていった経験などを

話された。当曰は、三〇年前の様子がうかがえる

資料も豊富に用意された。

その後の質疑応答を含め講座は三時間半に及び、今回も熱の入つたものとなつ

た。

(田口) 語文文化季報

警視庁機動隊の沖縄への派遣は
違法
注民訴訟 第五回 「頭弁論」

第三回 金玉良緣

一月二十四日 第五回 口頭弁論が開かれました。数日前に東京でも大雪が降りました。

まだ雪も残る寒い日でしたが、傍聴席は数席のみを残してほぼ満席となりました。

一月一七日に高木弁護士から書面で「準備書面（訴えの追加的変更申立書）」と「正

併書面（請求の追加的変更日立書）と「人申請書」を提出されており、今回の弁

論では準備書面の簡単な確認と証人申請そして原告からの意見陳述がなされま

た。被告側からは何の主張もありませんでした。

準備書面では、被告の「給与支出に関して、警視総監には何の権限もない」という主張に対し、「本件派遣が形式的には東京都公安委員会の決定だろうと、実質的には警視総監の決裁に基づいて本公安委員会の決定は行われ、警視総監の決裁抜きに都公安委員会の決定が行われないと反論をしています。警視総監に責任逃れをさせるわけにはいきません。

証人申請は原告一名、沖縄から五名、資料提供協力者一名、そして警視総監二名の総勢九名です。青龍弁護士が一人ひとりを紹介し、申請の理由説明がなされました。証人がどれだけ認められるか未知数ですが、なんとか法廷が現地での機動隊の行為の違法性を問える場にしたいです。

先日、高江での機動隊による通行規制が違法だと、沖縄での国賠訴訟が勝訴し、さらに、これに対し沖縄県は控訴しないと決まりました。これは私たちの裁判にも十分な追い風になるでしょう。意見陳述では、裁判所に対して司法が誠実な審議をすることで、司法としての責任を果たすのだと強く訴えられました。東京地裁にも同様の誠実さを求めたいです。

この日、八回目の期日が七月二三日と決定しました。回を重ねることに裁判の内容が少しずつ具体的に進んでいますが、油断はできません。最後までできることをやるのみです。

次回六回目の口頭弁論（三月一四日）では、本件派遣の違法性についての現段階での主張の追加と整理がされます。次

回もぜひみなさん注目してください。

「沖縄報道を問う」 1・27シンポジウム

東京MXテレビ（以下MX）放映の「ニュース女子」で沖縄の平和市民が貶められてから、ちょうど一年が過ぎた。この間、私たち「沖縄への偏見をあおる放送をやるさない市民有志」は、三月まで毎週、その後は隔週（または第二、第四木曜日）MX前で「訂正と謝罪を」求め

て抗議活動を行つてきた。昨年末にはBPO（放送倫理・番組向上機構）も、平和運動への取材の欠如を問題にしなかつたことや、侮蔑的表現について、MXの重大な放送倫理違反を指摘している。しかし訂正や謝罪はないままだ。今回のシンボジウム「沖縄報道を問う」は、いつもの活動と同様、MXに抗議し、この様な放送を許す社会に疑問を投げかけるとともに、公共の電波においてデマが広まつたときや、それにより人権侵害が起つたとき、私たち市民がどのように実践的にアプローチ出来るか、そして、今一度

発言順に MX 問題の鍵となるようなパネリストの主張を紹介したい。まず、市民有志の川名は、電波を通し、デマやヘイトが権威付けられ、沖縄へのヘイトやデマがさらに強まっている現状を報告した。ゲストで元 MX 社員、現 Our-Planet の白石からは、例えば放送局が経営的な問題などが紹介された。この構造は難の時、企業や制作会社がジャーナリスト精神や倫理を意に介さないような番組を持ち込むといった、放送が抱える現代的な問題などが紹介された。

例えば国民投票などのプロパガンダに容易に利用されうるという指摘もあった。フリーライナリストの安田は、MX問題は表現の自由といった高度な問題ではなく、ただ誹謗中傷、レイシズムの問題で、どう言い訳しても正当化されないと述べた。また、沖縄の海が、文化が好きだから差別する気はない、というのは詭弁だとも語り、会場から賛同の拍手が上がった。最後に、はるばる沖縄から駆けつけた泰事者であり、運動参加も命を守るという

[學習△報告]

ケネス・ルオフ『紀元一千六百年――消費と観光のナショナリズム』
(木村剛久訳、朝日選書、一〇一〇年)

試みであつたが、うまくいかなかつたことも描かれている。

「あの時代は良かった」という回想が少なかった事実も見落としてはならない、との指摘がされた。また、ナチスが行った暴虐が明らかにされた戦後においてもなお、

一九三一年の満州事変に始まり、アジア・太平洋戦争へと至る戦争が日本人にとって破滅的な事態を招いたのは歴史的事実である。しかし、その戦時はずっと暗い谷間の時代だつたとする理解は、果たして正しいのだろうか。著者は、そうした戦時の理解は、戦後になつて定着した神話に過ぎない、と指摘する。

日中戦争の泥沼にはまり、太平洋戦争の催事を見に出かけた。また、皇室関連の場所や神社を拵整備、清掃する勤労奉仕もいとわなかつた。

こうした大衆参加を促したのは政府だけではない。民間企業も祝典をビジネスチャンスと捉え、消費を促した。戦時のナショナリズムが消費を刺激し、消費主義がまたナショナリズムを煽つていった。

試みであつたが、うまくいかなかつたことも描かれている。

また本書は、一九四〇年を頂点とする大衆消費社会の到来に焦点を当てながら、同時代のドイツ・ナチズムやイタリア・ファシズムとよく似た政治体制が日本でも成り立っていたとする。つまり、生活が制限され、自由もなかつた暗い谷間であつたとの捉え方と、丸山眞男の、日本には「下からのファシズム」がなく「上からのなし崩し的なファシシズム化」が進んだだけ、とする捉え方も批判する。戦時日本の大衆的行動主義を軽視している、と。

た事実も見落としてはならない、との指摘がされた。また、ナチスが行った暴虐が明らかにされた戦後においてもなお、「あの時代は良かった」という回想が少なからぬ体験者がいる事実を含め、ナチス・ドイツを研究した池田浩士さんの仕事や、戦時下日本において、家の束縛から解放感を実感として持つて女性たちが戦争協力していく歴史を分析した加納実紀代さんの女性史研究が、先行研究としてあることも指摘された。本書は、戦時日本像を捉え返すだけでなく、現代のファシズムを考えるうえでも、さまざまな材料を与えてくれており、議論は尽

するとされ、万世一系列の天皇制国家をたたえるさまざまな記念行事が繰り広げられた。帝国臣民は定時に宮城を遙拝し、皇国史を学び、出版社や新聞社の愛国歌・帝国日本の血統による国民形成と統合の帝國全土にわたる消費と観光を支えたのは近代ナショナリズムである。海外開拓された大イベントは、帝國日本の血統による国民形成と統合の

ムと把握しようとする整理に対し、ド・イツやイタリアでファシズムが成立したのは共産主義革命を潰すための反革命であり、日本にはそうした現実性はなかつ

次回は、「一月二七日(火)。テキストは、『皇紀・万博・オリンピック—皇室ブランドと経済発展』古川隆久(中公新書)」(川合浩二)

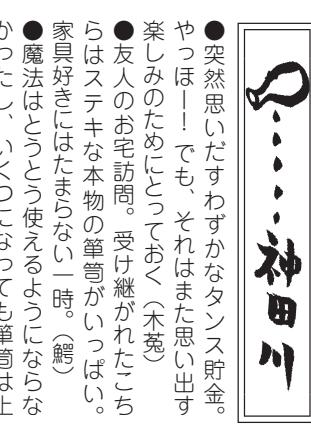
思いが通底している。そのような運動が救急車を止めたとMXが報じたことを許せないとする等の言葉から、現場に立つ当事者としての決意の重みを感じた。(※敬称略)

(Mel Yoshida)



- 1月4日(木) ●辺野古実防衛省抗議行動
1月13日(土) ●日雇全協総決起集会
●移民国家・アメリカにおけるトランプの暴走と反レイシズムの闘い Part2
1月14日(日) ●「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第3回 反「昭和」X「デー闘争の(経験)を通して「平成」代替わりを考える(集会の真相参照)
1月20日(土) ●鵜飼哲最終ゼミ「原理主義とは何か」以後
1月21日(日) ●上原成信さんお別れ会
1月24日(水) ●警視庁機動隊沖縄派遣は違法 住民訴訟第5回口頭弁論(集会の真相参照)
1月27日(土) ●沖縄報道を問うシンポジウム(集会の真相参照)
1月28日(日) ●辺野古実新宿アモ 2月3日(土) ●「日の丸・君が代」の強制をはね返す2・3神奈川集会(テモト)
2月13日(火) ~18日(日) ●万人受けはあやしい一世代を戯画いた絵師・貝原浩 12時~19時(最終日は17時まで) / ギャラリー・ヒルゲート(地下鉄京都市役所駅ほか) / ギャラリートークあり/主催・貝原浩の仕事の会(090-29042518)
開催中~7月末予定●日本人「慰安婦」の沈黙 13時~18時(月・火・休日休館) / W A M・女たちの戦争と平和資料館(地

- 下鉄早稲田駅ほか) / 連絡先・同館 (03-32024633)
2月10日(土) ●リュウセイオーラ Solo Dance 僕らの花/未来都市 18時30分開場/ブラン・B(地下鉄中野富士見町橋駅) / リュウセイオーラ / 問い合わせ:(080-5375-2058 龍之陣)
2月11日(日) ●2・11反「紀元節」行動 明治150年=近代天皇制を問う 13時30分~/全水道会館4F大会議室 (JRほか水道橋駅) / 太田昌国/主催:「代替わり」と近代天皇制150年を問う!反「紀元節」2・11行動 (090-3438-0263)
●「紀元節(建国記念の日)」を考える京都都集会 憲法不在の天皇「生前退位」 14時~/日本基督教団洛陽教会地下ホール/横田耕一/主催:日本基督教団京都教区「教区と社会」特設委員会ほか
2月12日(月) ●国体って何?オリエンピックって必要?2019茨城国体とナショナリズムを問う 14時~/つくば市竹園交流センター大会议室(TXつくば駅) / 宮崎俊郎 / 主催:戦時下の現在を考える講座 (090-8411-1457 加藤)
2月13日(火) ~18日(日) ●万人受けはあやしい一世代を戯画いた絵師・貝原浩 12時~19時(最終日は17時まで) / ギャラリー・ヒルゲート(地下鉄京都市役所駅ほか) / ギャラリートークあり/主催・貝原浩の仕事の会(090-29042518)
3月14日(水) ●警視庁機動隊沖縄派遣は違法 住民訴訟第6回口頭弁論 11時30分~/10時30分よりアピール行動) / 東京地方裁判所(地下鉄霞ヶ関駅ほか)
- 2月18日(日) ●沖縄・大浦湾に軍事基地は造れない!土木技師が語る「辺野古埋立工事の今」 14時45分開場/スペースたんばば(JR水道駅ほか) / 主催・沖縄・一坪反戦地主会関東プロジェクト(090-3910-4140)
2月22日(木) ●原発被ばく労災損害賠償裁判第6回口頭弁論 14時~/13時よりアピール行動) / 東京地方裁判所(地下鉄霞ヶ関駅ほか)
2月24日(土) ●大軍拡と基地強化にNO!防衛省デモ&集会 13時30分開場/ピープルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋駅ほか) / 太田昌国・伊藤晃・天野恵一/主催:ピープルズ・プラン研究所(03-6424-5748)
3月1日(土) ●アンダーハトリール?復興?3・11と「復興五輪」 13時15分開場/文京区民センターハウス / 小出裕章・佐藤和良/主催:A / 「2020オリンピック災害」おことわり連絡会(080-5052-0270)
3月31日(土) ●アンダーハトリール?復興?3・11と「復興五輪」 13時30分開場/文京区民センターハウス / 小出裕章・佐藤和良/主催:A / 「2020オリンピック災害」おことわり連絡会(080-5052-0270)
- 3月16日(水) ●第3回靖国連続学習会「近代天皇制と宗教」 18時30分~/エル大阪606号(地下鉄天満橋駅ほか) / 近藤俊太郎/主催:安倍首相靖国神社参拝違憲訴訟の会・関西(Fax:06-7777-4925)
3月25日(日) ●「平成」代替わりの政治を問う・連続講座第4回 明治150年式典・キヤンペーンと「生前退位」 13時30分開場/ピープルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋駅ほか) / 太田昌国・伊藤晃・天野恵一/主催:ピープルズ・プラン研究所(03-6424-5748)
3月31日(土) ●アンダーハトリール?復興?3・11と「復興五輪」 13時30分開場/文京区民センターハウス / 小出裕章・佐藤和良/主催:A / 「2020オリンピック災害」おことわり連絡会(080-5052-0270)



議会情報 INFORMATION

- 1月20日(土) ●鵜飼哲最終ゼミ「原理主義とは何か」以後
1月21日(日) ●上原成信さんお別れ会
1月24日(水) ●警視庁機動隊沖縄派遣は違法 住民訴訟第5回口頭弁論(集会の真相参照)
1月27日(土) ●沖縄報道を問うシンポジウム(集会の真相参照)
1月28日(日) ●辺野古実新宿アモ 2月3日(土) ●「日の丸・君が代」の強制をはね返す2・3神奈川集会(テモト)
2月13日(火) ~18日(日) ●万人受けはあやしい一世代を戯画いた絵師・貝原浩 12時~19時(最終日は17時まで) / ギャラリー・ヒルゲート(地下鉄京都市役所駅ほか) / ギャラリートークあり/主催・貝原浩の仕事の会(090-29042518)
開催中~7月末予定●日本人「慰安婦」の沈黙 13時~18時(月・火・休日休館) / W A M・女たちの戦争と平和資料館(地

- シヤル・ワイ・タンス?(貌) ●魔法はどうどう使えるようにならなかつたし、いくつになつても筆筒は手に踊れたことがない(鶴螺) ●家具好きにはたまらない一時。(鶴) ●友人のお宅訪問。受け継がれた筆筒にはステキな本物の筆筒がいっぱい。家業好きにはたまらない一時。(鶴) ●魔法はどうどう使えるようにならなかつたし、いくつになつても筆筒は上他の皆さんも、お疲れをお。